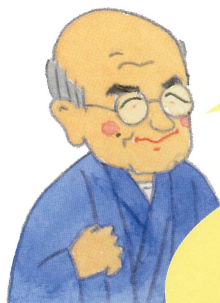


もっと知りたい

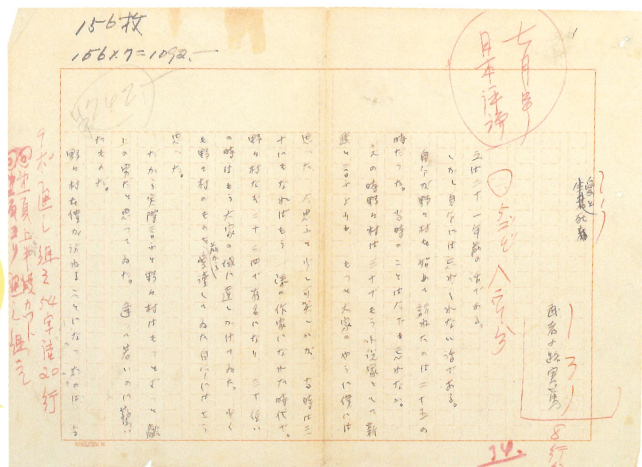
武者小路実篤

げんこう と 原稿を読み解く げんこう 【いろいろな原稿】

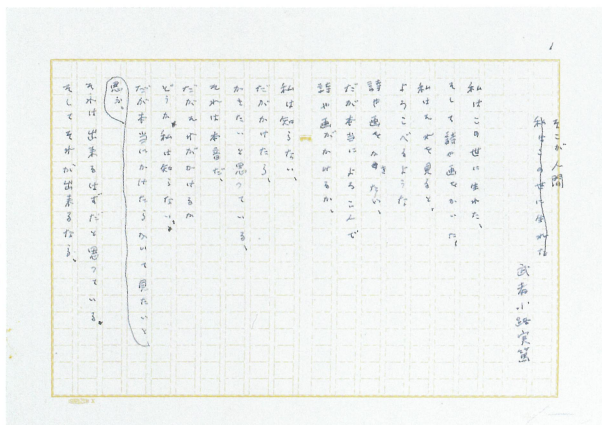


ほく げんこう しょうかい
僕の大切な原稿を紹介しよう。

これは村岡という青年と夏子の恋を
描いた作品なんだ。小説と言うんだよ。
最初は「生者死者」という題名にしていた
んだが、「愛と死」に書き換えたんだ。



武者小路実篤「愛と死」原稿 昭和14(1939)年発表

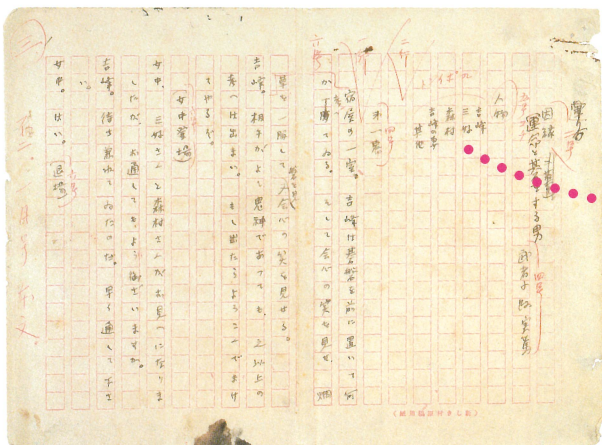
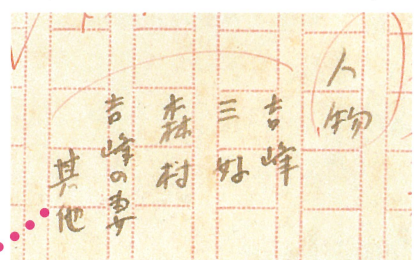


武者小路実篤「そこが人間」原稿
昭和50(1975)年発表

わたし
これは私も知ってるよ！詩だね。



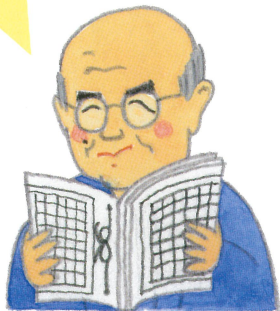
最初に登場人物が書かれている



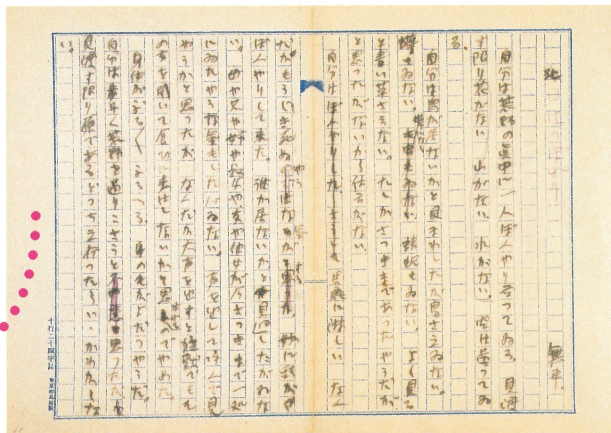
武者小路実篤「運命と碁をする男」原稿
大正13(1924)年11-12月執筆

これは戯曲と言って、
登場人物の会話で物語が進んでいくんだ。
原稿といっても内容によって書き方は
様々なのがお知りいただけたかな。

懐かしいなあ。これは僕が作家になる前に書いた原稿だ。穴を開けて、紐で綴じて、友人たちと回し読みしていたんだよ。

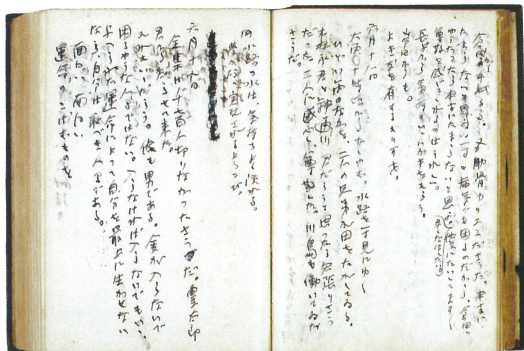


穴が残ってる！



武者小路実篤「日はのぼれり」原稿 明治41(1908)年11月26日執筆

本になった時の厚さなどを知るために、
つかみほん
本番と同じ紙を使って作る**東見本**に書かれた



武者小路実篤「気まぐれ日記」原稿 大正12-13(1923-24)年執筆

もとは日記だけど「気まぐれ日記」という作品として発表したから、これも原稿なのだよ。



つかみほん
東見本は本文が印刷されていなくて白紙なんだ。だから日記帳にしていたんだよ。

つかみほん
たしか、芸術社『武者小路実篤全集』の東見本だったなあ。

武者小路実篤「雑感」原稿 大正5(1916)年6月執筆

こんなになが

ほく
僕の字が読めるかな？
これまでで紹介した
けんこう
原稿から文字をえらんで
みたのだよ。

けんこう
原稿には
様々なエピソードが
詰まっているんだ！



「ん」「け」「あ」「ん」の3文字は上から「け」「ん」「ん」の順に並べた。写真に近い4文字は上から「ん」「け」「あ」「ん」の順に並べた。